

シリーズ6

内閣総理大臣を覚えよう！（6）

今回はいわゆる「保守合同」や「高度経済成長」の時期の内閣をみていきましょう。

鳩山一郎は1946年の総選挙で大勝した直後に、戦犯として**公職追放**になってしまいます。第5次まで内閣総理大臣を務めた**吉田茂**はその鳩山の「代打」で、日本自由党総裁・首相になったのです。そして、その**吉田茂のもとで日本は独立を達成**しました。

1951年に鳩山一郎は追放解除され政界に復帰します。しかし、吉田は政権を返さなかったために4年間にも及ぶ抗争が展開しました。自由党の反吉田派は**日本民主党**を結成し、鳩山一郎が総裁に就任します。

一方、**1955年に社会党の左派と右派が統一**します。その結果、社会党は国会の3分の1の議席を占める政党になります。これを見た**民主党と自由党**はいわゆる「保守合同」を行い、**自由民主党が誕生**しました。

自由民主党が政権与党、日本社会党が野党第一党の座を占めた時代を「**55年体制**」といいます。**1955年から1993年までの38年間もの間、55年体制は続きました**。この間、自民党はアメリカを中心とする西側陣営のもとで経済発展をめざし、社会党は日米安保体制を批判、自衛隊を違憲とするなどの批判を続けていくことになります。

1956年の『**経済白書**』には「**もはや戦後ではない**」という言葉が踊り、日本の経済は回復していきます。**池田勇人首相の「所得倍増計画**」は「夢」ではなく現実のものとなりました。1960年代を通じて、日本の経済は奇跡の復活を遂げていきました。

高度経済成長下の内閣

「ハト3 (さん) イキ イケ3 (さん) サト3 (さん)」

第52代→(1)(第1次)、1954. 12～、日本民主党

第53代→(2)(第2次)、1955. 3～、日本民主党

55年：社会党の左派・右派の統一、「保守合同」により自由民主党の誕生、GATT加盟

- 第54代→(3)(第3次)1955. 11～、自由民主党(第1代総裁)
56年：日ソ共同宣言(鳩山首相がソ連ブルガーニン首相とモスクワで調印)
→国際連合に加盟(日本は国際社会に復帰)
- 第55代→(4)、1956. 12、自由民主党(第2代総裁)
※首相が病気のため60日余で退陣
- 第56代→(5)(第1次)、1957. 2～、自由民主党(第3代総裁)
- 第57代→(6)(第2次)、1958. 6～、自由民主党(第3代総裁)
59年：三池争議激化
60年：日米相互協力及び安全保障条約(新安保条約)調印
→安保闘争(安保条約改定阻止闘争)
新安保条約は衆議院で強行採決、参議院は議決のないまま自然承認した。
しかし、岸信介は退陣。
- 第58代→(7)(第1次)1960. 7～、自由民主党(第4代総裁)
※「寛容と忍耐」を唱え、初の女性大臣(厚生大臣中山マサ)が就任
60年：国民所得倍増計画 →高度経済成長のはじまり
カラーテレビ放送開始
- 第59代→(8)(第2次)1960. 12～、自由民主党(第4代総裁)
61年：農業基本法
62年：日中準政府間貿易(LT貿易)の取り決め
63年：部分的核実験停止条約
- 第60代→(9)(第3次)1963. 12～、自由民主党(第4代総裁)
64年：IMF14条国から8条国に移行、OECDに加盟、
名神高速道路開通、東海道新幹線開通、東京オリンピック(アジア初)
- 第61代→(10)(第1次)1964. 11～、自由民主党(第5代総裁)
65年：日韓基本条約 →「朝鮮にある唯一の合法的な政府」と確認
- 第62代→(11)(第2次)1967. 2～、自由民主党(第5代総裁)
67年：公害対策基本法の公布
68年：小笠原返還協定に調印
69年：東名高速道路開通
- 第63代→(12)(第3次)1970. 1～、自由民主党(第5代総裁)
70年：大阪万博、国産初の人工衛星おおすみ打ち上げ成功
核兵器拡散防止条約調印、日米安保条約自動延長
71年：沖縄返還協定調印(72年：沖縄の施政権返還)、環境庁設置、
1ドル=360円から308円へ(固定為替相場制は維持)
72年：沖縄の施政権返還 →沖縄県の復活

※佐藤栄作首相は1974年にノーベル平和賞を受賞。日本の総理大臣で初めての受賞。

(1) 鳩山一郎	(2) 鳩山一郎	(3) 鳩山一郎
(4) 石橋湛山	(5) 岸信介	(6) 岸信介
(7) 池田隼人	(8) 池田隼人	(9) 池田隼人
(10) 佐藤栄作	(11) 佐藤栄作	(12) 佐藤栄作